

## 5. 今月のトピックス 「ミナミアオカメムシについて」

### ◆イネおよびダイズにおける吸汁害◆

本種は成虫および幼虫が、イネの穂やダイズの子実を吸汁して加害します(図 1, 2)。イネ(主に普通期)では斑点米、ダイズでは被害粒や青立ちの原因となります。本種は野菜類や果樹類も加害しますが、特にイネに対する嗜好性が高く、従来の斑点米カメムシ類に比べて加害能力が高いと報告されているため、注意が必要です。



図 1 ミナミアオカメムシ成虫(体長 12~16 mm)

### ◆三重県内での分布拡大と発生活消長◆

本種は冬の冷え込みに弱いため、三重県では少なくとも 30 年程前は東紀州地域でのみ分布していました。しかし近年、県南部から分布が北上、拡大し、2010 年には伊賀地域と中山間を除く、伊勢平坦地全域で発生が確認されました(図 3)。

三重県内での発生活消長は不明な点が多く、現在農業研究所において調査中です。県北中部における調査では、イネで増殖した個体がダイズへ移動して加害すると考えられました。ダイズ栽培では、近隣のイネでの発生状況に注意しましょう。

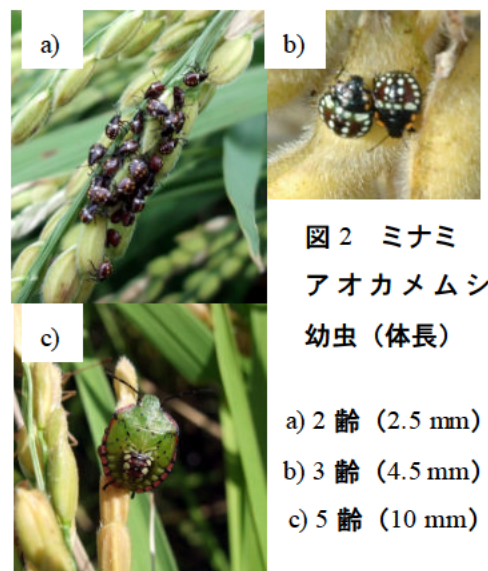


図 2 ミナミアオカメムシ幼虫(体長)

- a) 2 齢 (2.5 mm)
- b) 3 齢 (4.5 mm)
- c) 5 齢 (10 mm)

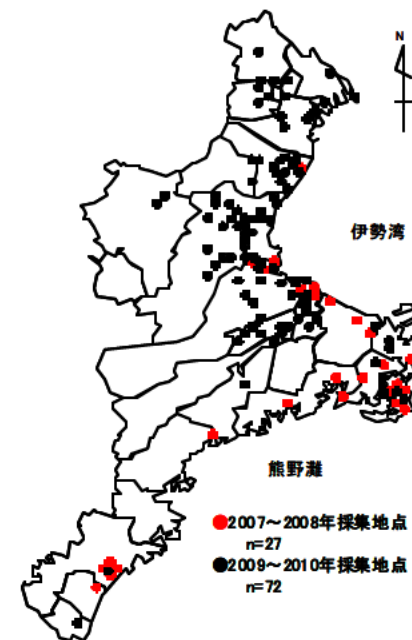


図 3 県内における発生状況  
(2007~2010 年・農業研究所)

### ◆防除対策◆

基本の対策は、他種の斑点米カメムシ類や吸実性カメムシ類と共通です。

- ・畦畔など周辺雑草(クサネムなど)の刈り取りによる耕種的防除。
- ・イネでは穂揃い期の薬剤散布、ダイズでは結莢期から子実肥大期の薬剤散布。発生が続く場合は追加散布が必要。

本種は一部の合成ピレスロイド系殺虫剤(Mr. ジョーカーなど)では、効果が低いことが確認されています。発生地域では効果の高い殺虫剤(スタークルやキラップなど)を選択しましょう。

本種は見た目の似た種が多く、幼虫での判別は困難です。成虫の判別については、防除所ホームページの資料 <http://www.mate.pref.mie.lg.jp/miwakekata/index.htm> を参考にしたり、防除所や農業研究所、地域普及センターで直接相談したりしてください。